

「授業の改善・充実のための取組」(国語)

～知識・技能を活用する力を伸ばす授業の工夫～

課題の設定

1. めあて(ねらい)の設定において

○単元のはじめに

- ・児童が学習の見通しが持てるよう、最適な言語活動のモデルを提示する。
- ・言語活動のモデルは、単元のねらいに合わせ、自作資料や上級生の作品、読み物などを用意したり、教師が演示したりする。
- ・単元計画表を示す。

○授業のはじめに

- ・児童がその時間に何を、どこまで学習するのかをめあてとして把握できるように提示する。

既習事項の活用の工夫

- ・本時のめあてと対応する言語活動のモデルの部分を示すことで、単元全体でどこまで学習が進み、どんな学習をしてきて、今後どのように学習が進むのかを意識させる。

追究する場面における手だて

2. 課題解決のための支援(考え、表現させる授業の工夫)

- ・各領域における様々な言語活動を行う能力を確実に身に付けることができるように、課題に応じて必要な文章や資料等を取り上げ、相互の思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力の育成を図る。

考えを広げたり深めたりする工夫 ☆言語活動のモデル例

○話すこと・聞くこと

- ・話し手と聞き手、それぞれに話す視点・聞く視点を示して、話したり聞いたりできるようにする。
- ・CD・映像資料などで話し合いのモデルを示し、大事なところを意識して発表したり聞いたりできるようにする。

☆学習発表会・新聞作り・意見文作り・意見交流会・インタビュー・パネルディスカッション・学級討論会・紙芝居作りと発表

○書くこと

- ・相手や目的に応じた記述ができるよう、取材・文章構成・記述について考える場を設けるとともに、できあがった文章を推敲したり、友達と交流したりする場も合わせて設ける。
- ・ねらいの達成に向けて、上記の5つの書く過程それぞれにおいて、モデルを提示し支援する。

☆新聞作り・パンフレット作り・本の帯、ポップ、紹介文作り

○読むこと

- ・単元全体を見通して言語活動を設定することで、考えを広げたり深めたりする発展学習の場を設ける。
- ・教材に関連のある読み物資料を用意して、児童の読書の広がりを図る。

☆ペープサート・リーフレット作り・推薦文・意見交流会・音読劇・手紙
☆想像画・お話の続き作り

まとめの場面における手だて

3. 振り返り・まとめにおいて

○授業のおわりに

- ・「振り返り」が漠然としたものにならないように、観点を示して本時の学習活動をふり返るとともに、ねらいの達成に向けて、学んだことを意識させながら、自分はどのように学習を進めていくか考えるようにする。

○単元のおわりに

- ・単元を通して学んだことを確認させ、今後の学習に生かせるようにする。